

Promiscuous Flowers Robert Mapplethorpe & Nobuyoshi Araki



オーキッド Orchid, 1987 © Estate of Robert Mapplethorpe



『近景』(1991年刊)より © Nobuyoshi Araki

メイプルソープ&アラキー 百花乱々展

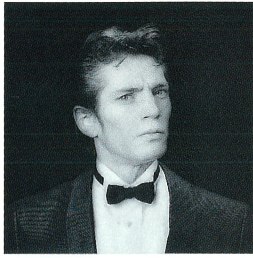
2002年4月27日(土) — 6月2日(日)

休館日 4月30日(木)、5月7日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木) 開館時間 午前9時—午後5時(金曜日は午後7時まで開館、入館は閉館時間の30分前まで) 主催 刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、中日新聞社 後援 及びリカ大使館、愛知県教育委員会 企画協力 株式会社アートライフ

刈谷市美術館

入場料 一般 600(400)円、高大生 400(200)円、小中生以下は入場無料(内は前売及び20名以上の団体料金)

Kariya City Art Museum



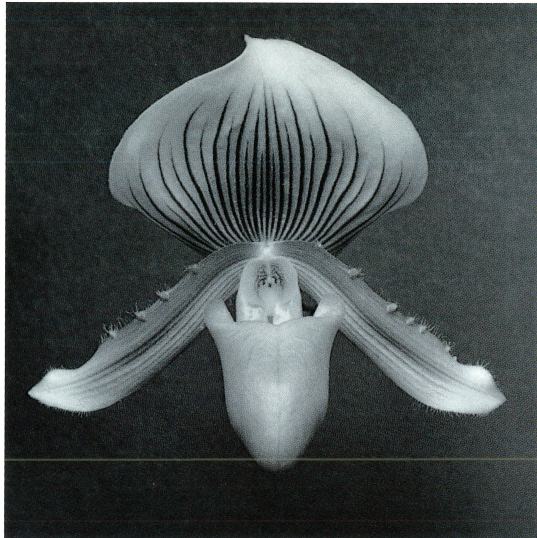
Self Photrait, 1986



花 Flower, 1985



カラー Calla Lily, 1986



オーキッド Orchid, 1988



チューリップ Tulip, 1988



カラー Calla Lily, 1988

メイプルソープ & アラーキー 百花乱々展

会期中の催しもの
つくる⇔みるプログラム

①「my own flowers — あなたの『花』をさがして」

5月12日(日) 午前10時→午後3時
対象：中学生→高校生(18歳まで)
内容：『花』と出会った時、あなたはどんな思いを抱きますか?メイプルソープとアラーキーの『花』の作品を鑑賞した後、ポラロイドカメラとカラーコピーをつかって、今度はあなただけの『花』を見つけます。

講師：山口ももこさん(美術家)
ところ：美術館2階研修室
参加費：300円(レクリエーション保険代)
※要展覧会チケット
定員：各24名

②「『花』を撮る—アーティストの視線で」

5月19日(日) 午前10時→午後3時
対象：大人
内容：メイプルソープとアラーキーの『花』の作品を鑑賞し、違うところ、同じところ、作品に込められた作者の意図などを参加者みんなで考察します。そして、アーティストの視線になって、自分の『花』をつくります。

講師：山口ももこさん(美術家)
ところ：美術館2階研修室
参加費：600円(ポラロイドフィルム代+レクリエーション保険代)※要展覧会チケット
定員：各24名

申し込み方法：「往復はがき」か「FAX」にて、参加したいプログラム名、参加者名(ふりがな)、住所、TEL/FAX、年齢(学年、学校名、保護者名)を記入のうえ美術館までお申し込みください。なお、返信用はがきにも住所と名前を記入してください。

※定員をこえた場合は抽選とし、結果をお知らせします。しめきりは、それぞれの開催日の10日前(必着)まで。

あて先：〒448-0852 刈谷市住吉町4-5
刈谷市美術館
FAX0566-26-0511

入場料	当日	前売/団体
一般	600円	400円
高大生	400円	200円

小中生以下は入場無料

団体は20名以上。
前売り券の販売先／サークルK(愛知・岐阜・三重・長野県下の各店舗)、チケットぴあ、ファミリーマート、他
※身体障害者・精神障害者保健福祉・療育の各手帳所持者、及び付き添いの方(1名)は入場無料。手帳をご持参ください。

交通のご案内／

◎JR、名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口より徒歩10分

※JR「名古屋駅」から快速で約15分

◎車：名古屋方面より＝国道23号線(知立バイパス)「ツツ木」出口から約5km
駐車場42台(無料)



刈谷市美術館

Kariya City Art Museum
〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL(0566)23-1636 FAX(0566)26-0511
http://www.city.kariya.aichi.jp/museum/

私たちは「花」という言葉を聞いて、たいてい「美しい」あるいは「かわいい」という言葉を連想します。こうした花たちは写真の発明に関与した初期の写真家ばかりでなく、現代の写真家にとっても、もっともポピュラーな「モデル」の一つです。身近にある美しい素材だからというのがその理由であることはまちがいません。しかしそれだけの理由で、写真の歴史が始まって以来150年以上の間、これほど多くの写真家が花を撮ってきたのではないはず。花を凝視し、カメラに閉じ込め、印画紙に解き放つ作業を通して、花は「花」ではなく、別の何かになる可能性をその美しさの裏側に秘めているのです。しかもその変容の度合いが「美しさ」や「かわいさ」という言葉からかけ離れたものになる可能性をも含んでいます。それは手ごわい、しかし何とも興味深い素材なのです。

本展では、日本とアメリカを代表する二人の写真家、荒木経惟とロバート・メイプルソープのさまざまな花の写真を紹介。感覚と感情に直接的に訴えていく、豪華でダイナミックな「バロック」の荒木の花に対して、メイプルソープのものは端正で、しかもその静謐さと緊張感によって鑑賞者の心を揺さぶる「古典主義」の花と言えるでしょう。動と静、湿と乾…両者の花の作品には多くの違いがあります。しかし二人はマスカルチャーという時代を舞台とし、自らのエロスを見つめ、タブーの枠を押し広げ、スキヤンダラスな写真家という定評を持つなど、いくつもの共通点を持つ東西のカルト的存在の写真家でもあります。

彼らの「花」からあなたはどのような言葉を、あるいは自らのどんな花を見つけたのでしょうか。花たちと濃密に戯れる場と時間をお楽しみください。



「近景」(1991年刊)より



「荒木経惟 センチメンタルな写真、人生。」(1997年刊)より



© Nobuyoshi Araki



「花曲」(1997年刊)より



「花曲」(1997年刊)より